

学会の誕生・歩み・これから

兵庫教育大学 岩田 一彦

本学会誌が第20号を迎える。これを機会に、時系列的に学会の歩みを振り返ってみよう。

本学会は1989年11月26日の設立総会で発足した。平成元年の発足である。また、「Japan as No.1」と称されて、一人あたり国民総生産が世界の第一位の絶頂期である。その時、二十一世紀の明るい未来に向けて出発した。世界のリーディング・カントリーとして、二十一世紀の世界を日本がリードしていく気概に満ちていた時期である。社会科教育学の世界は、全国社会科教育学会と日本社会科教育学会の2大学会が、全国学会として広く認知されていた。社会科教育の世界に身をおく研究者は、両学会に属し、両研究大会に参加している。社会系教科教育学会は、第3の全国学会になることを目指して出発した。

その際、前進の2学会との違いを明確にすることが必須であった。同じ性格の学会を発足させたのでは、屋上屋を重ねることになりかねない。そこで、本学会は「社会科教育実践に重点をおいて、理論を実践化する、実践を理論化する。」ことに中心をおくことにした。この学会の基盤原理は、新構想の兵庫教育大学大学院の設立理念と重なるものであり、事務局を兵庫教育大学におく学会として相応しいものと考えた。また、現職教員が研究する際の強みを発揮できるとの考え方もあった。この考え方は、20年を迎える今日も、変わらない原理として認識されている。

社会系教科教育学会の名称についても経緯を述べておきたい。平成元年版の学習指導要領によって、生活科、地理歴史科、公民科が発足した。厳密な意味では、社会科教育学会の名称では、これらの新設教科の研究が入らないことになってしまう。本学会が発足する以前に、全国社会科教育学会の中心メンバーに、新学習指導要領の発足に際して、全国社会科教育学会を「全国社会系教科教

育学会」に名称変更することを持ちかけたことがある。しかし、伝統のある学会名を変更することには到らなかった。それ以後、本学会を発足させることになり、社会系教科教育学会という名称を使うことになった。

また、前進の2学会は「全国」、「日本」が付いているのに本学会では付いていないことにも触れておこう。Geographical Association, Royal Geographical Society等の伝統のある学会は、国名を頭に付けていない。また、日本に閉じこもっているのではなく、二十一世紀社会では、世界に開かれた学会として発展して欲しいとの願いも込められている。

本学会は、名実ともに第3の全国学会としての地位を確立してきた。1999年には、日本学術会議登録学会としても認められた。さらに、学会誌17号からは、編集委員会体制も刷新され、論文の質的向上への組織が確立された。こういった努力の結果、本学会に掲載された論文は、第一級論文としての評価が確立されてきている。

第20号で、学会が成人式を迎えた。これまでの順調な発展は、会員諸氏の献身的な貢献によるものである。成人式を迎えた学会が、これからどのような飛躍を果たしていくべきなのかを、真剣に論議すべき時である。

実践に中心をおく研究の一層の発展、教職大学院における研究への対応、国際化に対応した研究の進展、世界の研究者との交流・共同研究の推進等々、学会が進むべき方向は多彩である。単年度計画の研究とともに、中期計画の下での研究の進展も図っていくことが必要であろう。また、学会員が夢を持って研究を推進できるような体制や雰囲気作りも望まれる。